

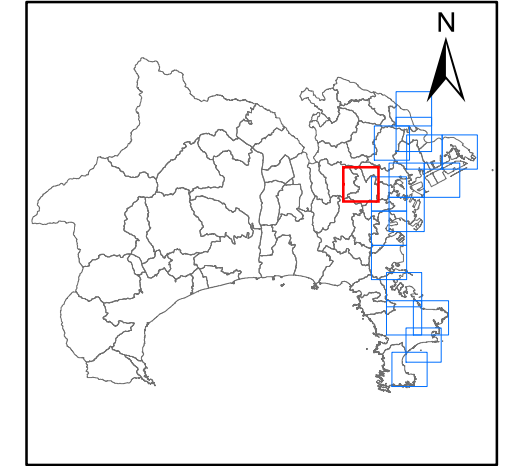
高潮浸水想定区域図（浸水継続時間）

1:25,000
0 250 500 1,000 1,500 m



【位置図】

作図範囲：
範囲に該当する市
横浜市



【凡例】

- 浸水継続時間
(浸水深0.5m以上)
- 1週間以上
 - 3日以上～1週間未満
 - 1日以上～3日未満
 - 12時間以上～1日未満
 - 12時間未満または浸水深0.01m以上0.5m未満
- ← 高潮の遡上等が明らかな区間の上流端

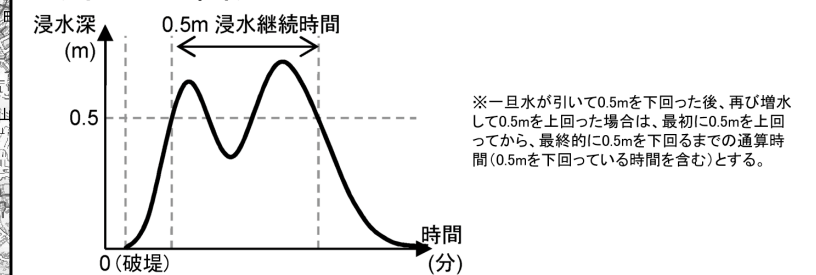
【留意点】

- 高潮浸水想定区域図は、水防法（昭和24年法律第193号）第14条の3に基づき、想定し得る最大規模の高潮による氾濫が発生した場合に、浸水が想定される区域（浸水区域）、浸水した場合に想定される浸水の深さ（浸水深）、浸水の継続時間（浸水継続時間）を2種類の図面に表示したものです。
- 高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風により、東京湾沿岸で潮位偏差（実際の潮位と天文潮位の差）または波高が大きくなる複数の経路・台風半径・移動速度を設定して、高潮浸水シミュレーションを実施しています。
- この複数のシミュレーションの結果から、浸水区域、浸水深及び浸水継続時間のそれぞれの範囲を最大包絡したものを示しています。
- 高潮浸水想定区域図は、地面の高さを基準とした浸水深を示したものであり、地下街や地下鉄等の地下空間の浸水については反映していませんが、実際には、高潮が地下空間に流入する場合があります。
- 道路のアンダーパスや造船所のドックなど、周辺の土地より極端に地盤が低い箇所では、局所的に浸水深が深くなります。
- 台風等により高潮が発生する状況では、同時に降雨も想定されるため、一級、二級河川については、上流から河川整備の目標とする降雨による洪水が発生し、下流端の水位は高潮発生時の水位となった場合の氾濫状況を示しています。
- 高潮による河川内の水位変化を図化していませんが、高潮の遡上等により、海岸から離れた地域でも河川から浸水することが想定されます。
- 高潮浸水想定区域図では、浸水シミュレーションで再現しきれない局所的な地盤の凹凸や建築物の影響があること、想定していない雨水出水（内水）が発生することなど、浸水想定区域以外でも浸水が発生したり、浸水深が深くなる場合があります。
- この区域図は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した台風を参考に実施したシミュレーションから設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというものではありません。
- 確実な避難のためには、気象庁が発表する台風情報や、各市が作成するハザードマップ等を活用してください。

【用語の解説】

浸水継続時間：0.5m以上の浸水が継続する時間
(0.5m未満の浸水はさらに継続する可能性があります。)

＜イメージ図＞



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を使用した。「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 5JHs 121」